

千年の時を想う：  
“青丹よし 奈良の都は 咲く花の にほうがごとく 今さかりなり”



撮影：2014年6月（奈良県・奈良市登大路町）

◆最盛時は、青や朱の華やかな色で満たされていた

奈良の興福寺は、藤原鎌足の死後の幸福のために建てられた山階寺が、飛鳥に移されて厩坂寺となり、さらに平城遷都で移建されたと伝えられています。興福寺のある場所は近鉄奈良駅から東に坂を上る高台に広がりますが、すぐ斜面地となって猿沢池に続きます。池に映る興福寺の五重塔は、奈良を代表する風景のひとつです。

岡村幸二（JRRN会員）